

■ご挨拶

求められる電源を目指して

日本風力発電協会 理事 **秋吉 清一郎**
グリーンパワー株式会社 代表取締役



はじめに

平成 28 年度に引き続き今年度も理事を務めさせて頂くこととなりました。理事就任から早 5 年になりますが今年も初心に帰って務めさせて頂きますので何卒よろしくお願い致します。

FIT が動き始めた

2012 年のスタート以来、22 円/kWh で買取が行われていた風力発電所で作った電気の買い取り単価（通称 FIT 価格）が 1 円引き下げられました。3 年前から太陽光の FIT 価格の引き下げが先行していたので、いつか風力もという覚悟はしていたのですが、実際に下がってみるとかなりキツイ。それでも時代の流れが止まることはありません。今年のご挨拶は少し立ち止まって今の状況を観察してみることにしたいと思います。

東日本大震災以降、再生可能エネルギーに対する注目は確実に上がりました。中でも風力発電は自然エネルギーの主力電源として日増しに期待が高まっているように感じます。併せてその期待に十分に答えきれていないという意見も少なからず伝わっています。実際に現場で井戸掘りをやっている立場で長年やっている、無責任なところで好き勝手な事を言いやがってと思うこともあるのですが、最近そういう気持ちを顔に出すことをやめることにしました。昨年の熊本、今年の朝倉と郷里が大きな災害に見舞われることを経験したからです。すぐ近くで風車が回っている、ソーラーパネルが至る所に敷きつめられている、なのになんで、俺んちには電気が来ねえんだ？地震や雨に文句を言っても仕方ありませんし、SNS でお悔やみを書かれてもひもじい思いは満たされません。八つ当たりなのは私も相手もよく判っています。しかし私はごめんなさいとしか言えませんでした。風車に携わって 18 年、いまさらあたりまえのことなのですが、蛇口を捻っても水が出ない状況になって、スイッチを入れても灯が点かない状況になって、電源というのは動いてあたりまえ、その動いてあたりまえの設備を動かし続けるために人知れず様々な局面を乗り越えることが発電という仕事なのだとこのことを改めて認識したのです。

社会の仕組みは様々な人の思惑の結果として変化してゆきます。加えてそんな人のつまらない思惑などはおかまいなしに自然は千変万化します。風車屋と言うのはその両方を相手に折り合いをつけてゆく仕事なのだとすることに気付かされた一年でした。

経済と技術と

太陽光の FIT 価格が 20 円台に入ったあたりから、風力発電の市場に太陽光発電で成功を収めた企業の参入が見受けられるようになってきました。様々な規制強化で遅々として進まない風力発電の現場から太陽光の活況を羨ましい思いで見ている立場としては喜ばしい限りです。反面、これから始まる厳しい競争を考えると気が重くなる時もあります。加えて、未だ解決していない難題も依然積み残されています。たとえば TV や新聞で取り上げられるような派手な事故が報道されるたびに跳ね上がる建設コストとどう取り組むのか？手詰まりになりつつある系統容量のシェアをどう担保するのか？そして 20 年を迎える風車をどうするのか？まだまだやらねばならない事は山積していますし、風車屋だけではどうにもならなさそうな重い課題も多々あるのですが、それでも、前に進みたいと考えています。我々の風車から延びる電線の先に繋がった未だ見ぬ誰かのためにと信じて。

今の事、自分の事だけを損得で考えれば風車屋などやっているよりも、もっと楽でもっと愉快的な生き方も色々あるのですが、そこは風車の良さも色々あります。なによりも風車が回り始めた時に、全く建設には縁のなかった赤の他人がどこからともなく寄ってくれて、今日も良く回っているねと言ってくれるその笑顔を支えに、今日も地球のどこかで風車を建てて歩くことにしましょう。寝てても風車が夢に出てくる、それが風車屋なのだとこの 1 年実感した次第です。

おわりに

今後とも日本風力発電協会の理事として、まだまだやらねばならないことが山積しているように思います。加えて微力ながら新しい仲間を迎える一助となることを願ってやみません。